

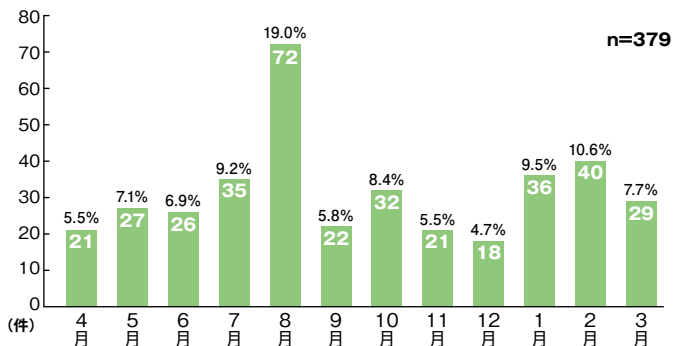
2011 (平成23) 年度

# そなえよつねに保険 事故データの分析

「そなえよつねに保険」で取り扱った事故データを集積、分析した結果がまとまりましたので報告いたします。事故発生件数（報告件数）は概ね例年同様で、379件、傷病の延べ数は526件でした。事故報告0件という県連盟もいくつかあります。わが団も県連盟も「事故0を目指そう」という意気込みで活動にあたっていただきたいと思います。データを見ると、色々なところにスカウト活動に特徴的な傾向が表れています。いくつか気付いた点をコメントしましたので、安全管理の参考にしていただければ幸いです。

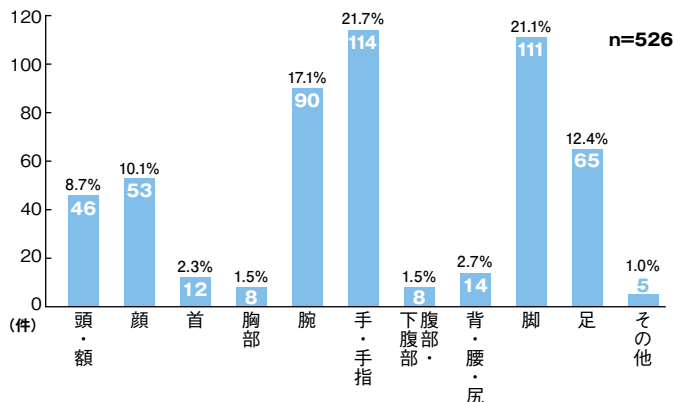
## 発生月別

8月の事故が最も多く、全体の2割を占めています。調理、ハイキング、工作、パイオニアリング、水遊び、設営、などの活動時に発生した事故では、その3割から5割は8月に集中していました。キャンプのプログラムに関連した事故と考えられますので、より一層の予防対策の強化をお願いいたします。また、1～3月の事故は昨年度より15件少なく減少傾向にあります。またこの3か月で全体の3割近くを占めており、事故時の活動内容の6割はスキー・スケートなどの冬季特有の活動時に発生していました。

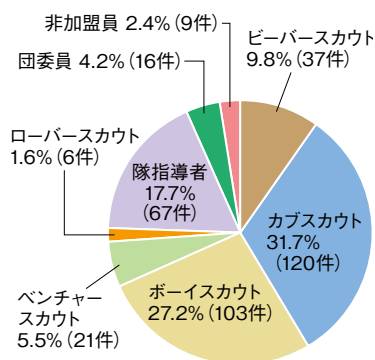


## 部位別 (のべ件数)

例年と同様に、全体の7割以上が上肢・下肢のケガでした。頭部や顔のケガの約3割は打撲で、「斜面から落ちた」「岩場から転落した」「自転車で転倒した」と、一つ間違えれば重大な結果になる可能性のある事故も目立ちました。背・腰・尻は他の部位に比べると少ないのですが、その半数は骨折となっています。この部位の骨折は後遺障害を残すこともあるため、予防したいものです。

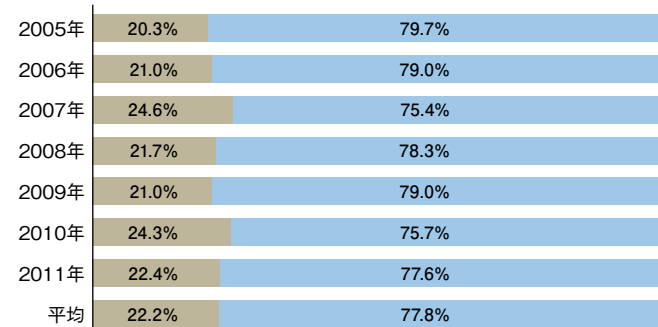


## 部門別



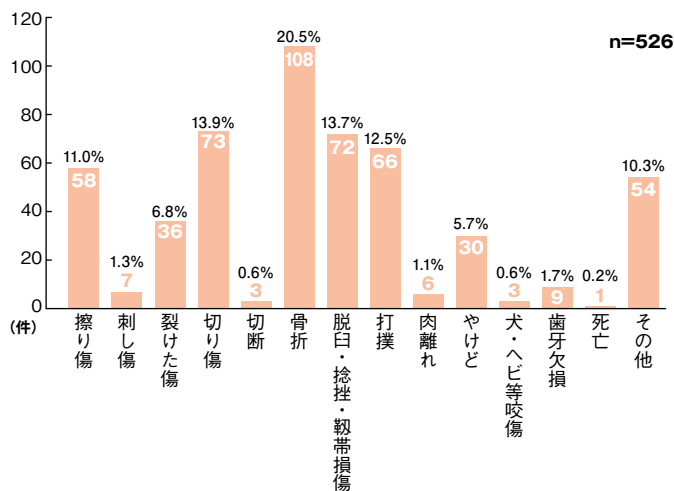
部門別の傾向は例年と比べて変わらず、カブとボーイがそれぞれ約3割を占めています。指導者/スカウト比をみてみると、指導者の割合は例年のごとく22.4%と過去6年間ほぼ変わりませんが、逆に言うと指導者事故発生率が増加しなかったことがせめてもの救いでしょうか。昨年の事故分析の考察の如く、その率は20数%が一定の水準のようで、今後もこの数字が漸増しないことを願うばかりです。

## 指導者/スカウトの割合の変化



## 傷病別

傷病別では、上位3傷病は骨折/脱臼・捻挫・靭帯損傷/切り傷で毎年変わっていません。骨折や脱臼・捻挫・靭帯損傷は年間を通して多い傷病です。これらは年間の発生件数は毎年大きく変わりませんが、2011年度は前年までスキー・スケートに関連して多発していた2月の発生件数が60件から40件に減少しました。スキー・スケートによる事故を防ぐよう心がけてプログラムに臨んでいただいた成果かと思われます。指導者の事故は107件起きており、このうち運動器系の傷病（骨折、脱臼・捻挫・靭帯損傷、肉離れ）は57件で53.3%を占めていました。ちなみに、肉離れは指導者（隊指導者、団委員）のみに発生していました。死亡や切断といった重大事故が発生しています。

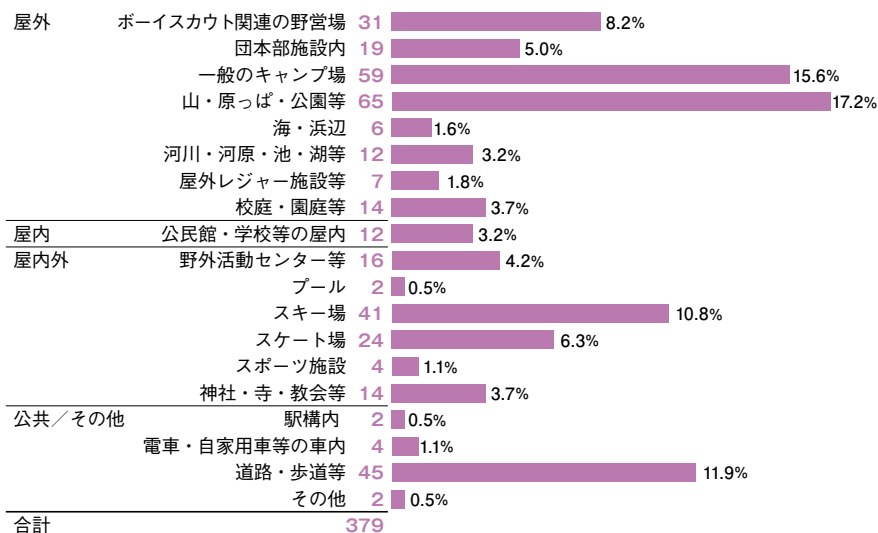


## 2011年度の 部門別上位3傷病

	1位	2位	3位
ビーバースカウト	骨折／10件	切り傷／8件	裂けた傷／6件
カブスカウト	骨折／32件	切り傷／21件	打撲／20件
ボーイスカウト	切り傷／33件	骨折／27件	擦り傷／22件
ベンチャースカウト	擦り傷／12件	打撲／11件	骨折／6件
ローバースカウト	打撲／2件	切り傷／1件	裂けた傷／1件
指導者	骨折／29件	脱臼・捻挫・靭帯損傷／22件	打撲／13件
全体	骨折／108件	脱臼・捻挫・靭帯損傷／73件	切り傷／73件

## 事故発生場所

事故の7割は屋外で発生していましたが、また、公共の施設・場所での発生も13.5%にのぼりました。



## 活動内容

移動中の事故が前年の3倍となる46件発生しており、自転車の転倒など、自転車によるものが11件(23.9%)、自動車事故が13件(28.3%)、その他道路歩行中に被害にあった例もあり、いわゆる交通事故事例も多数見受けられます。自分の注意だけでは防ぎきれないケースもありましたが、死亡事故も発生しており、こうしたリスクは念頭に置いて行動する必要があります。また、今年も休憩中の事故が34件発生しており、自由時間における安全管理を考えていきたいと思います。

